

幸福度指標(案)取りまとめにおける基本方針(論点)

1. 上位概念のあり方について

- ・幸福度を重視するのか、人生満足度を重視するのか。

(幸福度の例)

現在、あなたはどの程度幸せですか。(内閣府国民生活選好度調査など)

(人生満足度の例)

あなたは生活全般に満足していますか。それとも不満ですか。(内閣府国民生活選好度調査など)

考え得る最高の人生と最悪の人生があるとして、あなたの人生はどの位置にありますか(ギャロップ世界調査など)

(その他)

あなたは自分が亡くなる時にこの国に暮らしてよかったと思うと思いますか

2. 大枠(フレームワーク)の柱立てについて

- ・柱を多く立てるのか、ある程度括るのか。
- ・もし括るとしたらどのような観点があるのか。
- ・どのような柱を立てるか。
- ・大枠の中に持続可能性をどのように盛り込むのか。

3. ライフステージ等の勘案について

- ・平均値による一本化か、子ども、若者、成人、高齢者などの違いを勘案すべきか

4. 指標化に当たっての統計指標の扱いについて

- ・既存統計で把握できる指標に限定して議論を進めるのか。最も相応しい指標を想定して、そうした指標の把握まで提案していくのか。
- ・指標の選択においては学術研究の成果を踏まえることとすべきか。
- ・国際的な比較可能性をどの程度勘案するか。

5. 統合化の可否について

- ・わかりやすさの観点から統合化した指標の作成も考えられるが、幸福度を一定のウェイトで行うことが望ましいか。